

確かな学力をもとにして、他に働きかける社会科教育を目指して ～発達段階に沿った表現能力の育成と授業改善～

小山 均
社会科 西野 哲之
大場 華代子

1. テーマ設定にあたって

(1) これまでの研究のながれ

本校社会科では、これまでの研究において「生きてはたらく力の育成～みつめ、確かめ、表現する～」に取り組んできた。具体的には、事実認識の方法を身につけるため、事例を通して課題を追求、考察する学習を展開し、その学習の過程において調べ方や学び方、見方や考え方を学び、適切に表現する能力や態度の育成を目指してきた。

昨年度は、個人の意欲や関心をできるだけ的確に評価していこうとする取り組みを行った。具体的には同僚の参観による『見取り評価』を行い、授業者以外の同僚の目からみた評価を授業の改善へとつなげていった。

(2) 学習指導要領との関連

学習指導要領においては、学習内容が厳選され、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習など、生徒の主体的な活動をいっそう重視することが明記されている。また、地理的、歴史的、公民的分野のそれぞれの目標の(4)では、「多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」とあり、「様々な情報から、事実は何かを客観的に考える能力」や「適切に表現する能力」を身につけることも社会科の学習の上で大切なことがらとなっている。そこで、今年度も適切に表現する能力や態度の育成を目指すこととなった。

(3) 作業仮説について

昨年度の研究で、学年や教科を超えた『見取り評価』を行った際、「適切に表現する能力」が学年を追うごとについているように見受けられた。そのことから、適切に表現する能力の向上は発達段階と深く関係しているのではないかと考えた。そこで、どのような表現に関する能力がどの位の時期につくのかを3学年共通の課題から探ろうとした。

表現するときには、必ず資料を読み取るなどして自分なりに考えを作る作業が行われるのではないかと考え、資料を読み取る力や資料から読み取ったことを分類したり、視覚的にわかりやすく表す力、読み取ったことをもとに課題を設定したり予想したりする力を探るための課題を準備した。時間等の事情で調査数が各学年40名程度であることをお許し願いたい。

〈課題その1〉

〔課題〕 2月～3月にかけてのなす、レタス、大根の市場での価格の変化の表から、野菜の価格についての疑問を考えられるだけ書く。

〔目的〕 資料のなす、レタス、大根それぞれの価格に着目し、資料を読み取ることができているか。

〔考察〕 なすは価格が安定し高値であるが、レタス、大根は価格がなすに比べ低く変動が大きいことを価格表から読み取って疑問としているか、また、その他、価格についての疑問を的確にみつけているかで生徒の回答を読み取った。その結果、前述の読みとりがほぼできている生徒は、1年生8名、2年生11名、3年生14名であった。また、疑問はいくつか作っていたが、

もっとも注目してほしかった、なすとレタス、大根の価格変化の違いに気づく疑問が作れなかった生徒は、1年生28名、2年生13名、3年生16名であった。

〈課題その2〉

〔課題〕 課題1でつくった疑問から『野菜の価格のなぞ』について調べるのもっともふさわしい疑問を1つあげ、疑問の答えの予想とそのように考えた理由を書く。

〔目的〕 表の中心が、野菜の種類による価格の高低や変化の差を示していることをつかめているか。その原因が、野菜の種類により生産・栽培の仕方が違うことにあることを予想できるか。

〔考察〕 「なすの価格は高くあまり変化がなく、レタスや大根の価格は安く変化が大きい」ことを『野菜の価格のなぞ』としてとりあげた生徒で、その予想や理由が「なすは夏の野菜だから冬の価格が高く、そのためハウス栽培などで安定して作られているが、レタスや大根は気候に合わせた露地栽培が多いから」と答えている生徒数は1年生3名、2年生3人、3年生2人であった。このことから、課題を解決するための資料の読み取りや『なぜそうなのか?』と考え予想、仮説をたてる活動は本校の生徒にとってはかなり難しいようであることがわかった。また、この課題では、学年間の違いより、生徒個人の力の違いが、大きく関わっているのではないかと考えた。

〈課題その3〉

〔課題〕 日本の災害についてフランス人が書いた文を読み、自分なりに分類をする。

〔目的〕 文中の事柄を的確に分類する力と視覚的にわかりやすく表す力をみる。

〔考察〕 災害を地形に関係するものと気候に関係するものなどの確に分類をし、視覚的にわかりやすく表しているものは、1年生5人、2年生8人、3年生15人であった。また、何も書けなかったり、分類になっていない生徒は、1年生13人、2年生8人、3年生6人であった。学年が上がるごとに、文を読みとり分類する力や視覚的にわかりやすく表す力がついていくようである。文章の読み取りなどは国語科を中心として、また分類する力や視覚的にわかりやすく表す力は、社会科をはじめ多くの教科で取り組んでいるため学年が上がるにつれスキルが身に付いているのではないだろうか。

これらの結果を参考にして各学年に不足している力はどのようなことかを考え、適切に表現する能力を身につけるための実践に取り組んでみた。

社会科で扱う事柄について適切に表現していくことは、理解したり、思考したり、資料を読み取ったり、話を聞いたり、文章を書いたり、多くの能力が複雑に関連して成り立つことである。今回取り上げた課題だけでは、到底どの時期にどのような能力がつくのかを断言できない。とはいえ、生徒について、学年での特徴を知ることは大切なことであるし、私たちが思いこんでいる学年による生徒の能力と実際の生徒の能力は違っていることもあり得る。また、学年を一まとめにしがちであるが、個人の能力の違いを知り、更に伸ばしていくことも大切なことである。今後も機会を見て、的確に表現していく能力を構成している様々な力はどうすれば伸ばしていくことができるのかを考え調べていきたい。

〈資料〉

〔課題その1で、的確に疑問がつくれた例〕

1. 野菜の価格について、「なぜ〜か?」という形の疑問を考えられるだけ書きなさい。
その際、メモ欄を自由に使ってよいです。

疑問 「なぜ〜か?」

なぜ"大根の値段はどんどん上がっているのか。
なぜ"レタスはころころ値段がかわるのか。

なぜ"他の野菜は値段がどんどん上がっているのに
なすはほとんどかわらないのか。

なぜ"27,28日は"大根とレタスの値段が下がったのか。

A

〔課題その2で、的確な疑問を選び、予想、理由を書いた例〕

〔課題その2で、的確な疑問を選び、予想、理由を書いた例〕

- (1) 1. で作った疑問のなかから、『野菜の価格の謎』について調べるのもっともふさわしい疑問だと思うものを1つ書きなさい。

なぜ"他の野菜(大根・レタス)はどんどん値段が
上がっているのになすはほとんどかわらないのか。

A

- (2) (1) で選んだ疑問の答えを予想して書きなさい。

温室などで"一中安定した量を収穫できるナスに比べて、
大根やレタスはたくさんとれたり、少とれたりするから。

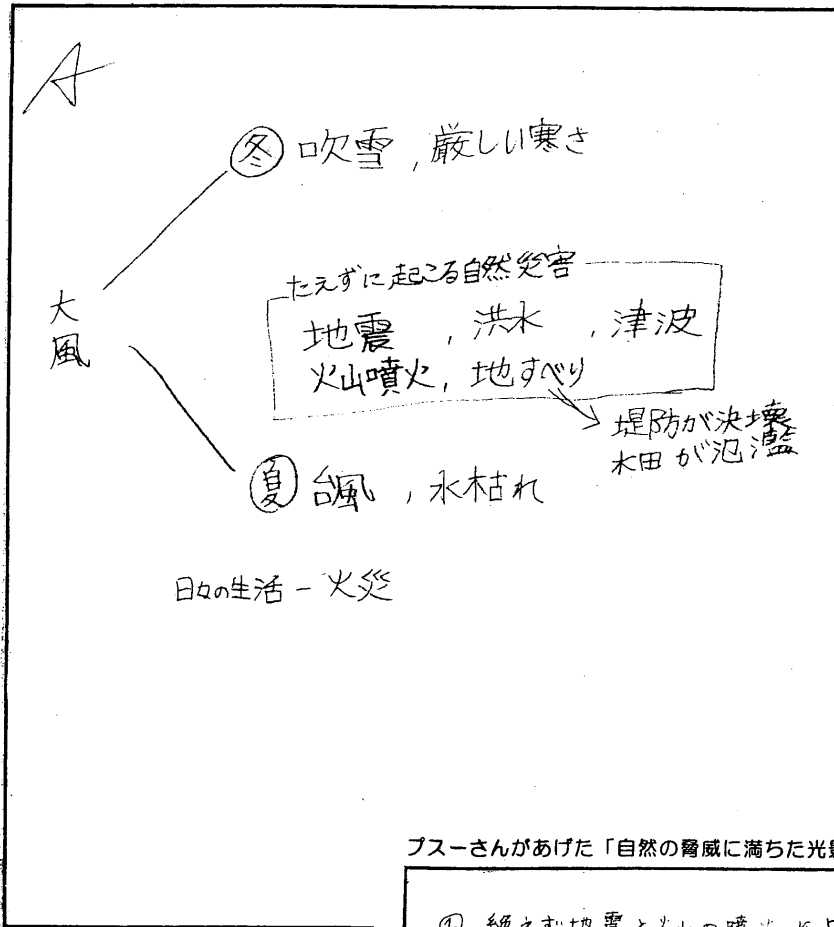
9

- (3) (2) のように考えた理由を書きなさい。

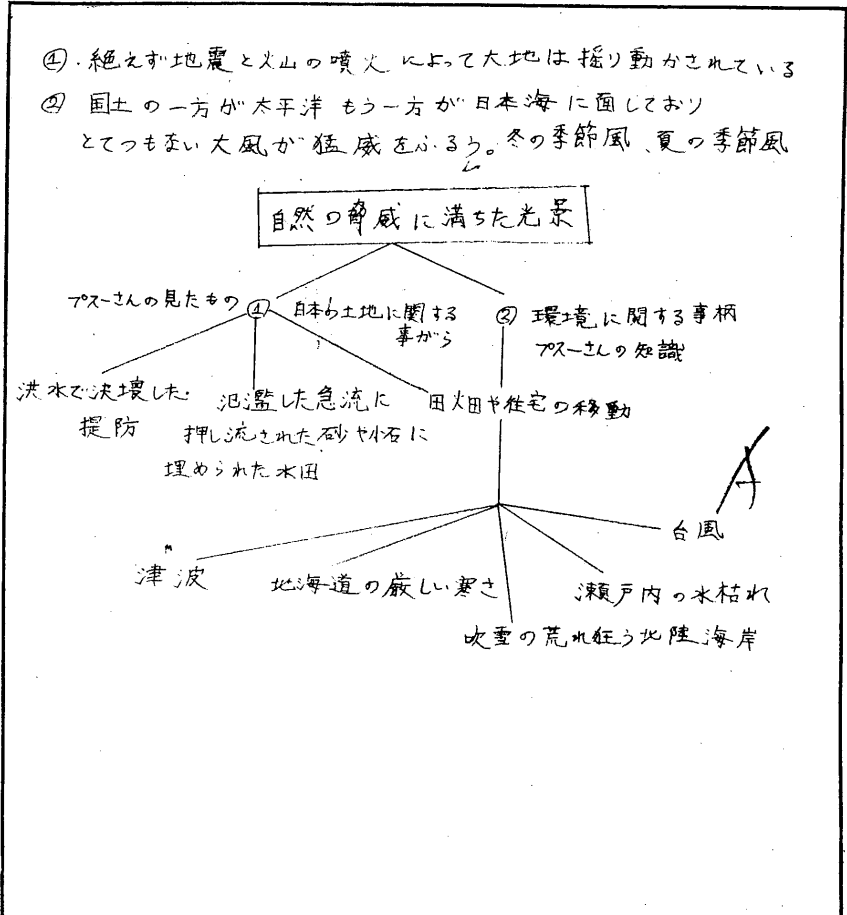
温室で育てたものは安定した量が収穫できて、
外などで育てているものは不安定だと思ったから。

[課題3で、わかりやすく分類できた例]

ブスーさんがあげた「自然の脅威に満ちた光景」をあなたなりに分類しなさい。



ブスーさんがあげた「自然の脅威に満ちた光景」をあなたなりに分類しなさい。



2. 授業実践

〈地理的分野〉 1年生の実践から

世界と日本の地域構成 『世界の国々の構成と地域区分』 ～世界地図を書こう～

(1) 指導にあたって

この単元は世界全体の情報を整理・処理したりするために必要な知識を身に付けさせることを大きな目標にした単元である。したがって、細かな知識の詰め込みではなく、世界全体を大観できるような工夫をする必要があると思われる。この単元について、学習指導要領は、

(1) 世界と日本の地域構成

ア 世界の地域構成

地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、おもな国々の名称と位置などを取り上げ、世界の地域構成を大観させる。

(イ) 国々の構成と地域区分

現代の世界は、州や大陸及びそれらを幾つかに区分した地域でとらえられていることや様々な国から構成されていることを理解させ、主な国々の名称と位置を地図を用いて身に付けさせるとともに、地名や地図への関心を高める。

(内容の取り扱い)

アの(イ)については、州名、大陸名及びそれらを幾つかに区分した地域名なども合わせて取り上げること。なお、国名については、生徒の既得知識を踏まえ更に拡充が図れるように配慮し、大まかに世界地図を描けるようにすること。

と書かれており、「詳細化の地理学習から、大観化の地理学習へ」(澁澤文隆 著 『新地理学習の方向と展開』)といわれるように、生徒たちの地図への関心・意欲を高めながら世界全体を大観し、地図帳を見ないで世界地図を書くという課題に取り組ませてみた。

(2) 『世界の国々の構成と地域区分』の単元指導計画 (総時数 5 時間)

- 第1次 知っている国を挙げてみよう
- 第2次 世界の地域区分
- 第3次 国の名前
- 第4次 国の形 (国境について)
- 第5次 世界地図を書いてみよう

(3) 授業での取り組み

第1次 知っている国を挙げてみよう

第2次 世界の地域区分

事前の課題調査で、1年生は資料を整理・分類し表現をする力が全体的にまだ弱いという結果が出たので、名前を挙げた国名をア行～ワ行に分類したり、国名を各地域（州）別に分類するという簡単な作業を何度か繰り返し行った。

はじめに生徒の知っている国名がどれだけあるのかを知るべく、2つの試みをした。1つは、新聞の中から国名を探す作業。2つ目には、グループに分かれ、知っている国名をお互いに出し合う作業をさせた。そのあと、国名をア行～ワ行に分けて分類させ、さらにこの2つの作業で出てきた国名を6つの州（地域区分）にわけた。また、地域区分を参考にしながら、地図上で各国の場所を確かめることもおこなった。

その結果、行ごとの分類をさせたり、地域（州）ごとの分類をさせたりしたことで、だいたいの国の場所を世界地図上でどのあたりかを指摘できるようになった。単純な作業ではあったが、多くの情報を整理・分類することで全体を大観できるという結果になったと思われる。ただし、整理・分類したものをもとに、自分の感じたことや考えを表現するといった力については、まだまだ不足していると感じた。

第3次 国の名前

教科書で紹介されているネーデルラント（オランダ）の例を説明し、どの国にも必ずその名前が付いた由来があることを伝えた。そのあと、グループに分かれて、国の名前の由来を調べさせる活動をした。

生徒に発表させ、全体でその発表のあと感想を聞くと、

「その国の気候が名前の由来に関係していた。」

「歴史的な出来事が関係していた。」

「地形に関係していた。」

「いろいろな意味があることに驚かされた。」

など、たくさんの感想が聞かれ、世界の国々に対する関心が高まったように思われた。

第4次 国の形（国境について）

事前の課題調査で、分析を進めていく上での「なぜ？」という疑問をもつ力や結果を予想する力がやや不足しているという結果が出たので、国境線についての学習の際、「なぜ」という疑問をもつことにポイントを置いた調べ学習をおこなった。

はじめに国の形をシルエットにして紹介し、国はいろいろな形になっていることに気づかせた。この気づきの中で生徒からうまく「どのようにして国境が決まるのか」という「なぜ」を引き出し、グループに分けて調べさせた。

活動の前の予想には、「地形によって決められる。」などの意見もあったが、反面、「特に意味はない。」「なんとなく。」といった意見も見られた。

調べ活動のあとに

「自然条件が国境を決めるときに大きく関係している。」

「植民地時代に支配されていたため、他の国の人に勝手に決められたということを初めて知った。」

「戦争や紛争によって現在の国境が決められたことがわかった。」

などのレポート、感想が聞かれた。

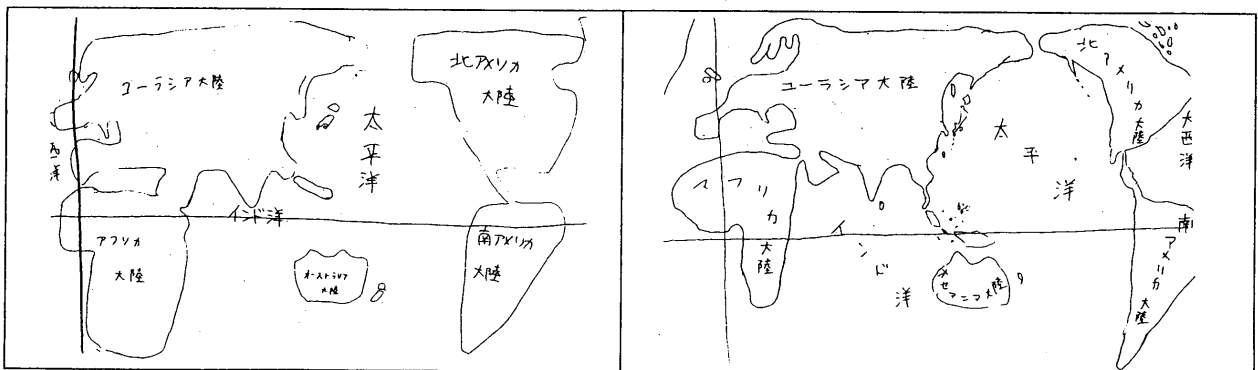
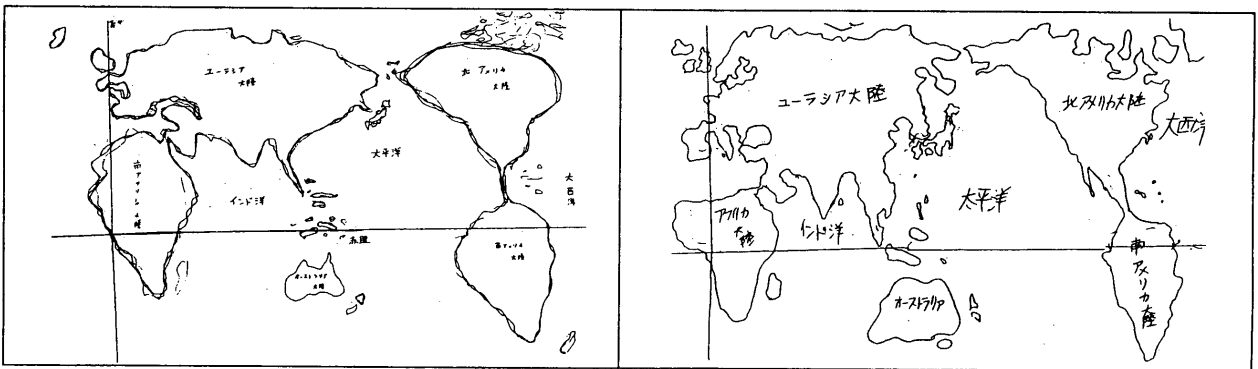
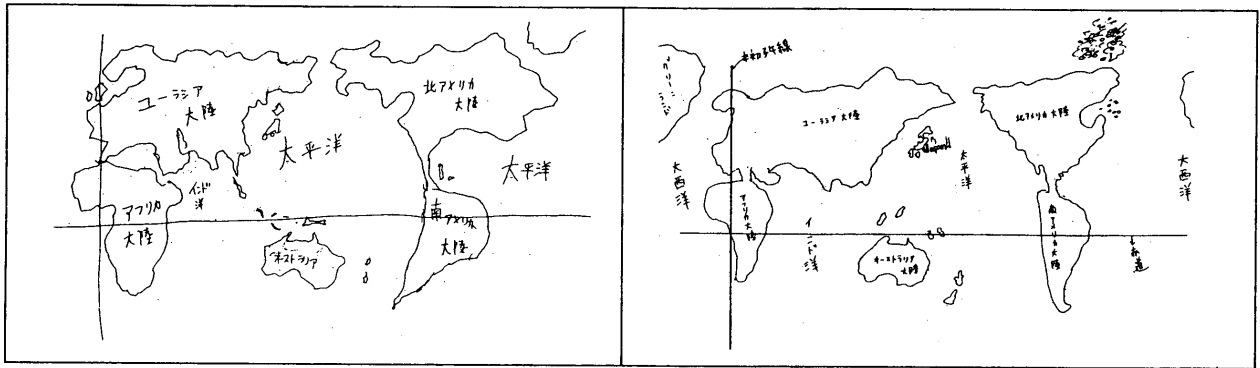
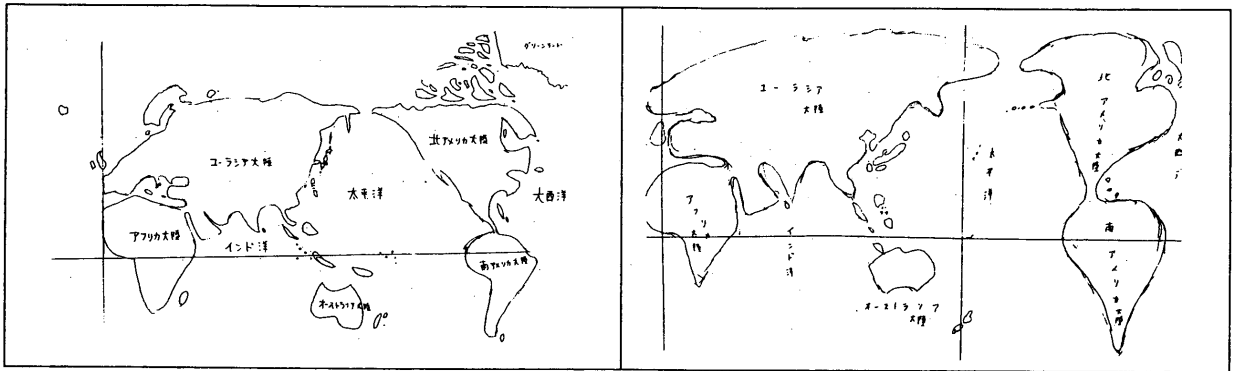
疑問の設定・予想にはある程度の知識が必要であるとも考えられるので、これからも、事実の中から「なぜ」を引き出し、その「なぜ」に対して予想をし、そして解決していくという課題解決学習を取り入れたいと思っている。そして、生徒の疑問を持つ力、想像する力を少しずつ養っていきたいと思う。

第5次 世界地図を書いてみよう

○ 授業展開

学 習 活 動	時間	教 師 の 支 援 ・ 評 価
1. 「何も見ないで世界地図を書いてみよう。」 という今日の課題を知る。	5	〔書くときのルールとして〕 ①細かい部分にはこだわらず、日本を中心としたメルカトル図法で書くこと。 ②3大洋6大陸を記入すること。 ③赤道を赤色、本初子午線を青色で記入すること。 を確認する。
2. 世界地図を書いてみよう。	10	・生徒が書いている様子を見て、どこにつまずきがあるか確認する
3. 世界地図を見て確認しよう。	15	・世界地図を黒板に提示し、各大陸をかたどった模造紙を提示し、大まかな形を確認する。 ・赤道を赤テープ、本初子午線を青テープで明示し、世界地図のどのあたりで交わるかを確認する。
4. もう一度、世界地図を書いてみよう。	10	
5. 作品を紹介する。	5	・何人かの作品を全体で紹介する。
6. 課題「世界旅行を企画しよう」の説明	5	・「世界旅行を企画しよう」を夏休みの課題とすることを伝え、書き方のプリントを配布し、説明する。

〈生徒の書いた世界地図〉



(4) 実践後の感想と考察

この単元に入る前の1年生の「確かな学力」を見る事前調査で、「なぜ」という疑問を見つける力や、資料を整理・分類し、表現する力が不足しているという結果が出た。そのため、この単元では生徒から「なぜ」という疑問を引き出すための課題解決学習や、資料を整理・分類し、表現する活動を取り入れた。

生徒から「なぜ」を引き出すためには、効果的な資料の提示が大切だったように思われる。提示する資料は生徒にとって、わかりやすいものでなくてはいけなし、それを出すタイミングによっても反応は全く違うものであった。課題を引き出すための有効な導入に工夫をしていかなければならないと感じた。

また、資料を整理・分類し表現する力については今回の活動だけではなく、これからも意図的くり返して行わなければならないと感じた。「提示された資料が何を示しているのか」ということを理解するには、繰り返しによる慣れが必要である。資料の整理・分類をすることで、いろいろな角度から分析できるという体験をたくさんさせていきたいと思っている。そして、いろいろな角度からの分析でわかったことを自分の言葉で表現したり、考えをまとめたりする力に結びつけたいと思っている。

〈課題「世界旅行を企画しよう」〉


〔美術館ツアー〕

〔ノーベル賞受賞者ゆかりの地ツアー〕

[世界の家めぐり]

①日本(白川郷) 合掌造り

合掌造りの歴史
合掌造りは、白川郷の山村に伝わる伝統的な建築様式です。雪が降り積もる冬の厳しい気候に適応して、屋根を急峻な合掌形にすることで、雪の積もりを防ぎ、雪が滑り落ちることで屋根を自然に掃除する仕組みになっています。




合掌造りの特徴
合掌造りの特徴は、急峻な合掌形の屋根にあります。雪が降り積もると、屋根の傾斜が急であるため、雪が自然に滑り落ちていきます。また、屋根の傾斜が急であるため、雪が滑り落ちることで屋根を自然に掃除する仕組みになっています。

合掌造りの歴史
合掌造りは、白川郷の山村に伝わる伝統的な建築様式です。雪が降り積もる冬の厳しい気候に適応して、屋根を急峻な合掌形にすることで、雪の積もりを防ぎ、雪が滑り落ちることで屋根を自然に掃除する仕組みになっています。

②モンゴル ゲル


ゲルの歴史
ゲルは、モンゴルの遊牧民が使用する伝統的な住居です。円筒形の外壁と、中央に設けられた開口部から内部へと通風する構造になっています。また、内部には暖炉が設けられ、冬には暖かい空間を提供します。



ゲルの歴史
ゲルは、モンゴルの遊牧民が使用する伝統的な住居です。円筒形の外壁と、中央に設けられた開口部から内部へと通風する構造になっています。また、内部には暖炉が設けられ、冬には暖かい空間を提供します。

③カナダ(ツンドラ地帯) イグルー

イグルーの歴史
イグルーは、カナダのツンドラ地帯に居住するエスキモーが使用する伝統的な住居です。氷や雪を積み重ねて作られ、内部には暖炉が設けられ、冬には暖かい空間を提供します。



イグルーの歴史
イグルーは、カナダのツンドラ地帯に居住するエスキモーが使用する伝統的な住居です。氷や雪を積み重ねて作られ、内部には暖炉が設けられ、冬には暖かい空間を提供します。

[世界の食ツアー]

中国

北京料理
北京料理は、中国の北方料理の代表です。北京ダック、北京填鴨、北京片皮鴨などが有名です。また、北京の伝統的な小炒、北京填鴨、北京片皮鴨などが有名です。

四川料理
四川料理は、中国の南方料理の代表です。四川麻辣鍋、四川担担麵、四川担担麵などが有名です。また、四川の伝統的な小炒、四川麻辣鍋、四川担担麵などが有名です。

フランス


フランス料理
フランス料理は、フランスの伝統的な料理です。フランス料理は、フランスの伝統的な料理です。フランス料理は、フランスの伝統的な料理です。フランス料理は、フランスの伝統的な料理です。

アメリカ
アメリカ料理は、アメリカの伝統的な料理です。アメリカ料理は、アメリカの伝統的な料理です。アメリカ料理は、アメリカの伝統的な料理です。アメリカ料理は、アメリカの伝統的な料理です。

[世界の遺跡ツアー]

エジプト


ピラミッド
ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。



ピラミッド
ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。ピラミッドは、エジプトの古代文明の象徴です。

メソポタミア

バビロン
バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。



バビロン
バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。バビロンは、メソポタミアの古代文明の象徴です。

〈地理的分野〉 2年生の実践から

『世界の国々の調査～世界の国々の調査レポートを作ろう!～』

(1) 指導にあたって

今年度の本校の研究テーマが「発達段階を見据えた[確かな学力]の探求」ということで、社会科でも発達段階を意識した取り組みが考察された。果たして、中学年代の3年間の中で明確な発達段階の違いが表れてくるのかは正直言ってわからず、そもそも歴史的分野と地理的分野を並行して学び、その土台の上に公民的分野を学ぶことそのものが発達段階を意識した教材構成であろうということも語られた。

3学年共通で実施した小テスト形式での生徒に対する課題調査の結果は、2年生の傾向に関するもののみ後に簡単に述べるが、学年の取り組み実践として、1年・2年においては、より発達段階の違いがわかるようにとの考えから、同じ地理的分野で、しかも同じような内容となる「表現活動」の取り組みを行うことにした。これは、中学生の学年間においても明確な発達段階に違いが出てくるものかどうか、違いが明確に出るならば何をどう学ぶことによってわずか1年で違いが出てきたのか、逆に違いがわからず「学力」が伸びていないとすれば、どういう取り組みの不足などで伸びないのかを考察したいと考えたからである。

2年の地理的分野の学習では、1年次の「都道府県の調査」に続いて行う今回の「世界の国々の調査」が学習の中心の1つとなる。

学習指導要領の地理的分野の 2 内容 (2) 地域の規模に応じた調査 のウには

世界の国々の中から幾つかの国を取り上げ、地理的事象を見いだして追求し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。

と定められ、その内容の取り扱いについては

生徒の特性や学校所在地の事情に配慮して、生徒の主体的な学習を促すことができることなどの点を考慮して、適切に選ぶ…

と定められている。

また、第3章の指導計画の作成と内容の取扱いにも書かれている「観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表することなどの活動を取り入れるようにする」といった観点から、本校社会科ではここ数年、重点的に「他にはたらきかける」「表現する」という活動に取り組んでいるが、その点も考慮して、今回の「世界の国々の調査レポート」に始まる実践に取りかかった。

(2) 世界の国々の調査レポートの取り組み内容

本校の現2年生は、1年生の時より長期休業の際には社会科の宿題として「調べ学習」「レポート」を課してきた。内容的には教科書に掲載されている一般的な課題を与えるものであり、1年生の夏休みには「世界旅行のパンフレットを作ろう」、冬休みは「身近な地域の調査課題を設けて調べよう」、春休みには「自分の家に何か特産物のある都道府県について1つ調べてみよう」というようなものである。この調査で

毎回注意したのが、必ずA4版の用紙2枚の表裏で簡潔にまとめること、そして各人の考察を入れることである。

こうした流れの中で、2年生の夏休みには今回の課題である「世界の国々の調査」を課題として与えた。以下が課題を与えた際のプリントである。

社会科・2年夏休みの宿題

世界の国々の調査レポートを作ろう！

2年()組()番・氏名()

社会科の夏休みの宿題は春休みの「都道府県の調査」に続いて、今度は「世界の国々」の調査が課題となります。地理の教科書のP.93～P.126も参考にして、下記の要領に従って作成して下さい。

- 作成手順
- ①まず、教科書のP.93～P.126をしっかりと読み直して下さい。必ずしましょう。都道府県調査と共通することあれば、国ごとに広がることで新しい視点も出てきていました。調査にはいろいろな見方のあることを確認して下さい。
 - ②調査する国を決定します。教科書に出ている「アメリカ」・「マレーシア」・「フランス」は残念ですが対象から外します。また当然「日本」も不可とします。行ってみたい国や有名な国でも構いませんが、名前も聞いたことのないような小国とか、知っているようでよく知らない日本周辺の国なんかでもいいでしょう。自分が何らかの縁や関係のある国であればなおさら結構です。
 - ③実際に調査してみます。
 - ・まず基本は地図帳などで、まずその国の地形など概観から確認することが最初かと思います。その他、統計資料や諸々の分布図など、また、インターネットなどで最新のデータを求めても構いません。
 - ・地理的な分野に出来るだけ絞り、多方面に広がりすぎないようにしましょう。その国の歴史、その国の政治など調べれば調べるほどデータは出てくるかと思いますが、今は地理のレポートなので地形や気候などに始まり、人口、都市、民族、産業、その他①で学んだ視点に絞って調査しましょう。
 - ④レポートに掲載する形式にまとめます。
 - ※レポートには文字だけを並べることはしないで下さい。
 - ・インターネットで検索した文書などを、そのまま貼り付けてあるようなものは評価を低くします。パソコンでも文書は自分で打ち込みましょう。
 - ・地図への書き込み：略地図でもいいですし、何らかの地図をコピーしたもので構いません。そうしたものに調査結果を書き込みましょう。
 - ・自分でグラフや表にまとめましょう。特に〇〇の収穫量など数値を調査した場合はグラフや表などにまとめると良いでしょう。
 - ⑤考察します。※毎回一番、肝心なのはここです。
 - ・考察＝わかったことの結論…ばかりではありません。今回の調査結果から想像されるその国全体のこと、調べていて新たに興味を持ったことや次の段階への疑問点となったこと、そうした調査の上での感想なども含めて文章でまとめて下さい。
- 記入要領
- これまで同様、A4の紙2枚(A3用紙1枚)としますが、各自で準備して下さい。今回も、表紙と裏表紙、中開きのページというように分けて使って下さい。
- いずれのページもカラフルにしたり、写真の切り貼り・イラスト・その他、作る方法は自由です。ワープロで書いた文字を貼るのも、そもそも全てをパソコンで作ってしまっても構いません。

提出 **8月30日(月)**

皆さんの個性あふれる調査結果を期待しています！

現在、調査レポートに関しては提出させ終わり、次の段階への取り組みの最中である。最終的には「世界の国々のニュース番組を作る」活動に持っていきたい。

「世界の国々の調査レポートからニュース番組を作ろう」指導計画

第1時 グループ内で調査レポートを発表し合おう。

まず、この調査レポートを題材にして、1クラス6つのグループでそれぞれの各人のものを発表し表現させる。

第2時 1つの国について内容を深め、ニュースの題材を捜そう。

次にグループの発表の中から1つの国を選び、ある程度内容の再調査や吟味をさせ、その上で1つか2つのその国の地域的特色を表すようなトピックスを見つけさせる。

第3時 ニュース番組作成の準備をしよう。

5分間程度の、その国の紹介も兼ねるようなニュース番組を作るために、原稿をはじめ、地図・写真・パネルなどを準備する。

第4時 ニュース番組の作成をしよう。

準備したものを持ち寄って実際に撮影を自分たちで行う。

第5時 ニュース番組を見て世界の国々の理解を深めよう。

クラスで互いの班の作品を観賞する。ただし、ただ見るだけでなく、その国の理解を深めるためにレジュメやワークシートなどを準備したい。

(3) 世界の国々の調査レポート作品例

① オーストラリアを調査した生徒の考察

今回調べていて一番印象深かったのはオーストラリアのイメージが全然違っていったことです。私のイメージとして今まではグレートバリアーフのような自然やシドニー・ケアンズのような大都市がたくさんあり、とてもきれいな国だというイメージでしたが、調べてみると内陸部は乾燥していて住める状態じゃなかったり、人が住んでいるのは東西の沿岸部だけで大都市も少なかったりと、意外な面がたくさんありました。オーストラリアは人口分布も産業も、特に気候によって特徴が出ていると思いました。人口は乾燥して砂漠状態の内陸には少ないし、農業も乾燥した内陸部では穀物などが作れず「羊毛」生産が盛んです。そうした面から気候の影響が大きいことがわかりました。都道府県の調査の時もそうでしたが、国や県の産業は地形や気候の影響を受けて発達していくのだということが、今までの2つの調査でわかりました。よって、こういう調査の時も気候や地形をまず調べるべきだということもわかりました。

② ニュージーランドを調査した生徒の考察

私は今までニュージーランドという国は人口より羊の頭数が多いということぐらいしか知らず、ただ牧草が広がっていて、国の財政も羊毛に頼っているような、田舎の国…というイメージしかありませんでした。でも本当は、豊富な自然・文化・産業などが存在する国だということがわかりました。ニュージーランドには世界に誇る氷河や、昔に比べると減少はしているものの深い森や火山などの自然もたくさんあることがわかりました。原住民のマオリ族や移民のポリネシア人の文化が今でも残っていることもわかりました。産業も豊富なよい土地を生かして農業や酪農が盛んで、漁業・林業も栄えていることがわかりました。そして、私が驚いたのは福祉や教育制度がとても進んでいることでした。国民の生活水準が高いということは、田舎の国と思っていたけど、本当は進んでいる国なんだという印象も強く受けました。それにニュージーランドという国では自然や動物を保護する法律も進んで作られているので、国土を大切にしながら国民のための制度もたくさん作られていることがすごいと思いました。日本も見習うところがたくさんあると思いました。日本とはほとんど時差がないのに知らないことがたくさんあった国なので調べて良かったと思います。

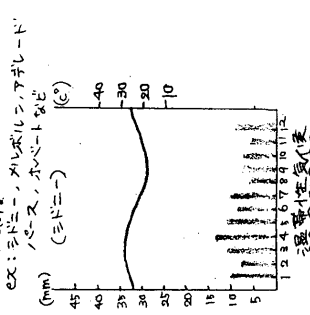
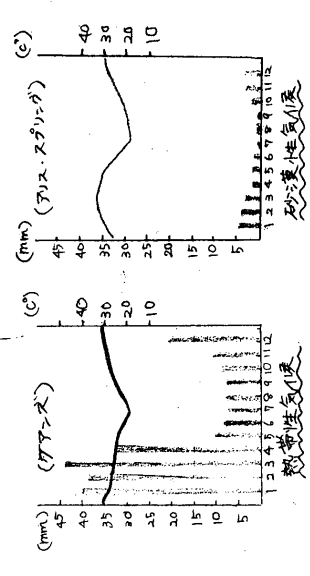
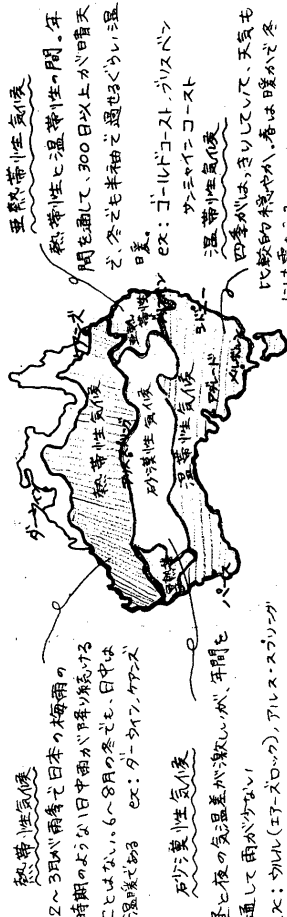
1. 地形

オーストラリアはイセの大陸から孤立した古い大陸である。約1億年前までは、南半球にゴンドワナランドという巨大大陸があったが、その後、オーストラリア、アフリカ、南アメリカなどの諸大陸に分離し、オーストラリア大陸はゆっくりとアジアの方向に移動していった。面積は786万2000km²、世界で6番目に大きい。



2. 気候

オーストラリアは南水型を除けば、最も乾燥した大陸である。また、南半球に位置するので、日本とは季節が逆になるため、夏が1月に訪れる。



3. 人口

オーストラリアの中央部の高温、乾燥地帯では水や食糧物がほとんど得られないため、内陸の者に住む人は少なく、オーストラリア人のほとんどは東西に大きく、2つの沿岸地域に住んでいる。



4. 民族

オーストラリアの国民には200以上の異なる民族の出身者が含まれていてオーストラリア人は世界で最も文化的に多様な民族である

民族	オーストラリア系	イギリス系	アイルランド系	イタリア系	ドイツ系	中国系	スコットランド系
オーストラリア系	38.7%	36.5%	11.0%	4.6%	4.3%	3.2%	3.1%

この表を見て、オーストラリアにはヨーロッパの人が多いことがわかる。これは調べてみると、イギリスの植民地だったからだと分かる。だから、その周りの国もほとんどオーストラリアに入ってきたのだと思える。だから、オーストラリアの国民にはイギリスの国がほとんどである。先住民アボリジニもオーストラリアには、先住民のアボリジニ民族がいる。アボリジニ民族は少なくても4万年以上前から住んでいるが、イギリスによる植民地化によって内陸部にはいなくなり、今では少数のアボリジニ民族が残っている。

5. 産業
オーストラリアの羊毛の生産高は世界第1位である。オーストラリアの内陸部は高温、乾燥した気候のため穀物の栽培はできないが、羊の放牧に適している。また、鉱産物の産出量も世界でトップクラスの量である。その中でも石炭の輸出量が最も多い。このうち、43%もが日本人輸出されている。
第1次産業
第2次産業
第3次産業
第4次産業
第5次産業
第6次産業
第7次産業
第8次産業
第9次産業
第10次産業

第1次産業
オーストラリアの羊毛の生産高は世界第1位である。オーストラリアの内陸部は高温、乾燥した気候のため穀物の栽培はできないが、羊の放牧に適している。また、鉱産物の産出量も世界でトップクラスの量である。その中でも石炭の輸出量が最も多い。このうち、43%もが日本人輸出されている。
第2次産業
オーストラリアの鉱物資源から製錬されている。
第3次産業
オーストラリアの最近ではオーストラリアの経済の中心となってきた。オーストラリアに行くと白人観光客が多く、日本人だけでなく他の国からもたくさん訪れるようになった。そのことにより、第3次産業は1次産業に次いで、オーストラリアの経済の中心となつていく。去年私が行ったときも日本人観光客は多かったのだ。観光客はほとんど大規模な観光客だと思える。

1) ニュージーランドの国土

赤道と南緯の中間に位置し、オーストラリアの南東約1020kmの面積を有する。日本とほぼ同程度の国土面積である。北島と南島の2つの主要島があり、南島の南端沖にラパヘウア島、北島の北端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

① 地形

国土の大半は山と丘陵であり、南島の1/3は丘陵地帯に占められ、北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。



ニュージーランドの山岳地帯

北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

② 気候

ニュージーランドは、南緯に位置し、気候は温暖で、年間降水量は豊富である。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

③ 都市

人口の80%が南島のクリストチャーチに集中している。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

④ 人口

ニュージーランドの総人口は約400万人である。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

⑤ 森林

ニュージーランドには、広大な森林地帯があり、木材産業が重要な役割を果たしている。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。



ニュージーランドの森林

2) ニュージーランドの産業

① 農業

国土の約70%が農地であり、農業は主要な産業である。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

② 羊毛産物

羊毛産物はニュージーランドの主要な輸出品であり、輸出額の約50%を占めている。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

③ 畜産

牛肉、羊肉、乳製品の生産は、ニュージーランドの主要な産業である。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

④ 林業

木材産業は、ニュージーランドの主要な産業の一つであり、輸出額の約15%を占めている。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

⑤ 漁業

漁業は、ニュージーランドの主要な産業の一つであり、輸出額の約10%を占めている。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。



ニュージーランドの漁業

⑥ 鉱産

石炭、石油、天然ガスなどの資源は、ニュージーランドの主要な産業の一つであり、輸出額の約10%を占めている。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

⑦ その他

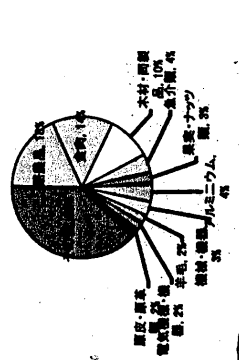
観光、教育、医療などの産業は、ニュージーランドの主要な産業の一つであり、輸出額の約10%を占めている。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。

⑧ 福祉

福祉制度は、ニュージーランドの主要な産業の一つであり、輸出額の約10%を占めている。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。北島の南端沖にトウモロコシ島がある。



ニュージーランドの福祉施設



(4) 実践を通じての感想と考察

残念ながら、この原稿を書く段階で実践の最後の段階まではとても遠い状況である。よって、ここまでの取り組みと合わせ、前述の課題調査の結果や現在の2年生の概観を含めての「発達段階」を考えた考察を行いたい。

昨年度からの特徴として、現在の2年生はその時直接学んでいる各事象と、それまでに学んで既得した知識を結びつけて思考する能力が不十分という面が見られた。学習能力の傾向として、単純な知識の蓄積(暗記)や何らかの法則に物事を当てはめて思考するのは得意であるが、得た知識や法則を総合して思考・分析するような能力が未発達というものである。

これは、課題調査の結果からも判断され、ある文章表現をわかりやすく分類し表記するような作業は徐々に上達している様子がかがわれるが、表やグラフ表記されたものから一般的な社会知識も取り入れながら問題化したりその原因を予想するような作業では、極端に出来が悪くなり、表面的に見えるものしか表現できない、その背後を考えたり予想したりした上での表現活動ができないという傾向がハッキリと読み取れた。

それは先に掲載した生徒2名の「考察」からも読み取れる。①のオーストラリアを調査した生徒が、国の産業を形成する様々な要因の中の中心が気候であることに気づき、そのことに基づいて分析をしているのに対し、②のニュージーランドを調査した生徒の場合は、自分が細かく調べたことの各項目をあらためて文章表現しているだけに過ぎないことがわかる。今回、この2名の例を掲載したが、実は①のような考察を展開する生徒は極めて少数であり、②の生徒のものでも自分の言葉で書き直してある分だけまだよく書けている方だと言える。中には、とても考察とは言えない「一言感想文」のような考察まで見られる。

そこで、今回の2年生の取り組みでは、いずれかの国の何か表面的なトピックスを1つか2つ取り上げることから、逆にその国の様子を考えさせるようなニュース番組作りをさせたいと考えた。ニュースの原稿の中に、その国の特徴を示唆するような内容をふんだんに盛り込み、それを見たクラスメートが、その国の特徴を想像できるような内容にしていきたい。

前ページの例でも見られるように、単に調べてまとめるだけの活動であれば、限られたスペースとはいえ、様々な情報を細かく羅列し、きれいで情報量の多いレポートとして仕上げる力を持っている生徒は多い。しかし、それを活用した思考力・表現力となると今一步なのである。

中学生としての「発達段階」というものを専門的に見た時、こうした力がやや劣っていて当然の年代なのか、それとも徐々に確実に伸びていなければいけないものなのかは、私自身にはわからないが、経験的に考えるに、こうした一般知識の浸透・蓄積がしっかりしている段階にあつて、思考力に問題があるのはある面大変不満足である。今回の取り組みがそれらをすぐに解決するものかどうかは別にして、何らかの克服の一助になれば幸いである。

〈公民的分野〉 3年生の実践

(1) はじめに

「3年生は1年生、2年生に比べ、多角的な見方や多面的な考え方をふまえた表現で相手に伝えようとしている」という作業仮説に基づき、6月には、社会事象に対して考える力が各学年でどのように違っているのかを調べてみた。(1. はじめに 参照) その結果、社会事象に対し考える力は学年間の差よりも、同じ学年の中の個人の差が大きく感じられた。そこで、7月におこなった研究授業では、3年生の一人一人が、より多角的・多面的な見方や考え方を持つことができるようになればと考えた。

(2) 7月の研究授業についての指導案等

3年4組 社会科学習指導案

平成16年7月7日(水)

第6限 3-4教室

指導者 大場華代子

1. 題材名 「Stop The 人権侵害」

2. 目標

- ・自らすすんでさまざまな活動に参加している(関心・意欲・態度)
- ・他の意見を参考にして自分なりの考えを作ろうとしている(思考・判断)
- ・適切なトピックを選び、自分の考えを伝えようとしている(資料活用・表現)
- ・人権侵害がおこる場面を知ること、人権についての理解を深める。(知識・理解)

3. 評価の観点及び基準

- ① 社会的な事象への関心・意欲・態度
 - ・グループでの活動に積極的に参加しようとしている。
- ② 社会的な思考力・判断力
 - ・人権について、自分の考えを持つことができる。
- ③ 資料活用能力・表現力
 - ・人権に関する新聞の記事を探することができる。
- ④ 社会的な知識・理解
 - ・現実に起こっている人権の問題に気づき、人権について理解を深める。

4. 指導にあたって

指導要領では、社会科は1,2年生で地理、歴史を平行学習し、それを基礎とし3年で公民の学習を行うこととなっている。また、地理の学習は基礎→応用という形で学習順が決められており、また、歴史も近現代になるほど内容が具体的で単純化できなくなるため学習の順序は時代を追っていくのが妥当であろう。

そこで、社会科では生徒の発達段階を学習内容面から考察することは難しいと判断し、学習で身につけさせたい力の面から考察することとした。

昨年度は、年間を通し各学年で、社会的な表現力を付けることを目指した活動を行った。社会的な表現力とは、多面的、多角的な見方や考え方を基にして、自分の理解したことや考えたことを聞き手

にわかりやすく発信し、それを受信した聞き手が新たな発信を行い、より多面的、多角的で高次な思考を共通に持つことではないかと考えた。

そこで、1年生は地理、2年生は歴史に関する物を、3年生は公民に関する新聞記事の紹介を全生徒が行った。その際、教師が互いの授業を見取っていく中で、各学年の大まかな特徴として次のことが挙げられた。

「1年生 発表者は事実のみを伝えることが多い。(例:これは静岡のお茶です。おじさんから送られてきました。おいしかったです。)」

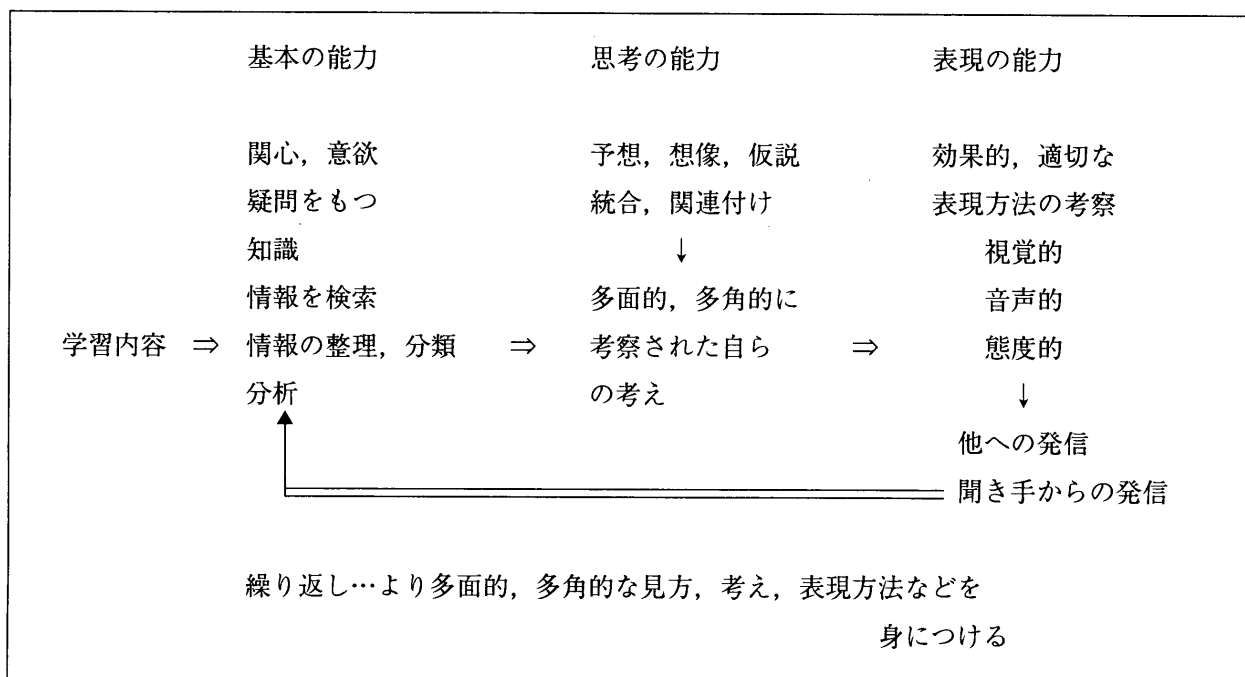
「2年生 発表者は事実とそこから自分がわかったことや疑問に思うことを伝える生徒が多くなった。また、聞き手は質問をすることもあるが枝葉的なことが多く、核心をついた質問はあまりない」

「3年生 発表者は自らの意見を伝えており、聞き手は発表者の考えたことについての質問もしている。発表者と聞き手の間の意見のキャッチボールも行われる」

このような生徒の様子からたてた作業仮説は次のようなものである。

『3年生では、1,2年生での学習をふまえ、多面的、多角的に判断して、自らの意見や考えを持ち、他へ伝えることができる。また、伝えられた者は、新たな意見や考えを再び発信することができる』である。

ところで、自らの意見や考えを持ち、他へ伝えていくためにはどのような能力が必要なのか、どのような流れで能力が身に付くのかを考えて簡単に図式化した。



では、基本的能力は1~3年生ではどのように違いがあるのだろうか。まず、学習内容の面から知識は大きく違っているはずである。その他の能力について、6月に全学年共通で「情報の整理、分類、分析、仮説」の違いを探った。その結果、学年差より個人差が大きいことがわかった。

今回の研究授業は、上で述べた3年間を通した能力の向上と、能力が身に付いていない生徒へのフォローという視点から考えてみた。3年間を通した発達段階に沿った計画と、1時間ごとの生徒個人への支援を考察していきたい。

学年差については今後違った能力面からアプローチをしていきたいと考えている。

5. 指導計画及び評価計画 (総時間 4 時間)	評価項目
第 1 次 新聞から人権侵害を知ろう。 (1 時限) 本時	①②③
第 2 次 「STOP 人権侵害」を PR するビデオを作ろう。 (3 時限)	①②③④

6. 本時の学習 (第 1 次中 1 時)

- (1) 題材名 新聞から人権侵害を知ろう
- (2) ねらい
- ・実際に起こっている人権侵害の例を新聞記事から見つけ、要約や自分の考えを書くことができる。
 - ・他の人に自分の記事の要約や考えをわかりやすく伝えることができる。
 - ・ビデオのシナリオを考えることができる。

(3) 評価の観点及び規準

- ① 社会への関心・意欲・態度
新聞記事を探してきている。
グループ活動に参加している。
- ② 社会的思考力・判断力
新聞記事の内容について自分の考えを書いている。
- ③ 資料活用能力・表現能力
テーマに沿った適切な新聞記事を選び、要約している。
新聞記事を参考にビデオのシナリオを考えている。

(4) 発達段階との関連

多面的、多角的な見方や考え方に基づいて、適切に他へ情報を発信し、受け取っていく力は、さまざまな能力(資料の読み取り、分析、発表のスキル、コミュニケーションのとり方など)がつくにしたがって、1年生より2年生、2年生より3年生と高まってゆくだろう。

そこで、3年間を通じて、このような能力を育てるための活動を授業で計画して取り入れてゆきたい。また、3年生で身につけてほしい程度の能力が身につけていない生徒もみられる。そのような生徒がしっかりと学習活動に参加し取り組めるように、本単元の学習のグループは教師が決定した。その際、生徒一人一人が、グループの中で何を身につけていくのかを自覚できるよう配慮したい。さらに、グループ活動では一人一人に具体的にアドバイスをし援助してゆきたい。

(5) グループや抽出生

話し合いやグループでの活動が活発になるよう、また、各自が自分のノバ主ところを意識できるように、グループ分けは教師が考えた。その際、集中力や意欲、資料の読み取り力の弱い生徒などを同じグループに集中しないようにした。次の7名の生徒はどのようなようであったかメモをお願いします。

- A男 集中力弱い B男 集中力弱い 興味のないことはしない C女 集中力弱い 面倒くさがり
D男 自己の世界に没頭しやすく人の話を聞いていない E男 集中力弱く投げやり 読み聞き力低い
F男 投げやりな態度が見られる 知識はある G男 場にあった適切な発言ができない 知識はある

(6) 本時の展開

学習活動	配慮事項及び評価	時間
1. 本時の学習を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの人権についての学習の振りかえりと今後の学習の流れについて説明する。 	5
2. 新聞記事の宿題（スクラップ）の点検をうける。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題をしてきた生徒に声を掛けながら点検 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価</p> <p>①スクラップ点検</p> </div>	5
3. グループのなかで各人の記事の紹介をする	<ul style="list-style-type: none"> ・5人×8グループ作り，リーダー，サブリーダーを決めることを話す。 ・座席表，グループ内の発表の記入表を配布する。 ・グループ活動中の各人の目標と自己評価について話す。 ・紹介する内容は「記事の要約」と「考えたこと・疑問・わかったこと」 ・聞き手は紹介の内容を要約して記入するよう指示する。 	15
4. グループでビデオのテーマを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで紹介しあった新聞記事や自分たちの身近な問題のなかから決めるよう話す。 	10
5. グループごとの中間発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループのリーダーに，どのような記事をもとにどんなビデオの題名にしたかを話してもらう。 	10
6. まとめ 次時の確認。	<ul style="list-style-type: none"> ・次回はストーリー，配役，カメラマンなどを決め，撮影に入ることを話す ・スクラップを回収する <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価</p> <p>② スクラップの「考えたこと・疑問」欄の記述内容</p> <p>③ スクラップの記事がテーマにあっているかどうか</p> </div>	5

単元評価基準表

公民

(単元 人間の尊重と日本国憲法)

	単元名及び目標	主な学習活動 または学習項目	関心・意欲・態度 (評価方法と基準)	思考・判断 (評価方法と基準)	表現・資料活用 (評価方法と基準)	知識・理解 (評価方法と基準)
1 次 2 時間	個人と社会生活 ・一番小さな社会 集団と呼ばれる家 族のあり方や社会 生活でのルール の意義について考 える。	①家族について考 えてみよう ・自分の未来の家 庭をシミュレーシ ョンし、個人を大 切にする家庭生 活について考 える ②社会的存在と してのわたした ち ・社会生活でル ールが決られて いるのはなぜか 、実際の生活と 照らし合わせ考 える	①シミュレーシ ョンに積極的 に参加してい る ②ワークシ ートに取 り組んでい る	①自分の考 えをワー クシート に書いて いる ②他の人 の考 えを聞 いて再 び自分 の考 えを ワー クシ ート に書 いて いる	①自分のシ ミュレ ーション につ いて示 してい る	①憲法24 条を理 解し、 男女 が協 力し て社 会を 支 え る こと の大 切さ を理 解 す る ②人間 が社 会 中 で 集 団 と し て 暮 ら す た め に ル ー ル を 守 る こ と が 必 要 だ と 理 解 す る
2 次 12 時間	人権と日本国憲法 ・、日本国憲法 について理解し、 人権に対する意識 を高める。	③「あつてよ いちが い」「あ つては いけ ない ちが い」を 考 え る ④人権 思想 や日 本 国 憲 法 制 定 の 歴 史 に つ い て 理 解 す る ⑤日本 国 憲 法 の 原 則 の 国 民 主 権 ・ 基 本 的 人 権 の 尊 重 に つ い て 理 解 し 、 ビ デ オ を 作 成 す る。	③ワー クシ ート に 取 り 組 み 、 授 業 で 意 見 を 示 す こ と が で き る ④ワー クシ ート に 取 り 組 んで い る ⑤ワー クシ ート や ビ デ オ 作 成 に 取 り 組 んで い る	③自分 の意 見を 持ち 、他 人の 意 見を 参考 にし てい る ⑤人権 の侵 害に つ い て 自 分 の 意 見 を 持 ち 、 他 人 の 意 見 を 参 考 に し て い る	③自分 の分 類を 示し てい る ⑤新聞 から 人権 侵害 につ いて の記 事 を 探 して い る	④人権 思想 の発 展 や 日 本 国 憲 法 の 成 立 に つ い て 理 解 し て い る。 ⑤基本 的人 権の 内 容 や 関 連 す る 憲 法 を 知 り 、 人 権 に つ い て 理 解 す る。
評価 方法 評価 基準	(評価B)		①授業 で指 示さ れた ワー クシ ート の課 題に 取 り組 んで い る ②ワー クシ ート を提 出し てい る ③授業 での 観 察 ワー クシ ート を提 出し てい る ④ワー クシ ート を提 出し てい る ⑤ワー クシ ート を提 出し てい る 授業 で指 示さ れた 課 題に 取 り組 んで い る	①ワー クシ ート に自 分 の考 えを 書い てい る ②ワー クシ ート に自 分 の考 えを 書い てい る ③ワー クシ ート に自 分 の考 えを 書い てい る 他 の考 えを 参考 に再 び自 分の 意 見を 書い てい る ⑤ワー クシ ート に自 分 の考 えを 書い てい る 他 の考 えを 参考 に再 び自 分の 意 見を 書い てい る	①授業 で自 分の 立場 を表 明し てい る(授 業観 察) ②授業 で自 分の 考 えを 表 明し てい る(授 業観 察) ⑤・テ ーマ にあ った 記事 を選 び、 要約 を 書い てい る (スク ラッ プ)	①単元 別テ スト で お お む ね 理 解 し て い る ②単元 テ ス ト で 説 明 し て い る ④単元 別テ ス ト で お お む ね 理 解 し て い る ⑤・単 元 別 テ ス ト で お お む ね 理 解 し て い る ・ビ デ オ を 作 成 し わ か っ た こ と を 書 い て い る。
	(評価A)		①記述 で書 く部 分も 手 抜 き な く 書 い て い る ②内 容 や 記 述 量 が 多 い ③記 述 で 書 く 部 分 も 手 抜 き な く 書 い て い る ④授 業 の 作 業 時 間 中 に 調 べ 終 わ る ⑤・記 述 で 書 く 部 分 も 手 抜 き な く 書 い て い る ・グ ル ー プ で の 活 動 で 協 力 し て い る	①～⑤ 量・ 室と もに 熟考 した 記述 であ る	①授業 で積 極的 に自 分の 意 見を 示し てい る ③授業 で積 極的 に自 分の 意 見を 示し てい る ⑤テ ーマ にあ った 適 切な 記事 を選 び、 ポ イン トを つか んだ わ かり やす い 要 約 を	①②④⑤ 単元 別テ スト ほ ぼ理 解し て い る ⑤ビ デ オ を 作 成 し 人 権 に つ い て わ か っ た こ と が 室 ・ 量 的 に し っ か り と 書 か れ て い る
	(評価C 対 する 生 徒 へ の 配 慮 事 項)		①～⑤ 授業 での 声 掛 け ワー クシ ート が 完 成 す る よ う 手 助 け す	①②③⑤ 考 え る ヒ ン ト を 与 え 、 説 明 で き る よ う 手 助 け す	①③⑤ 課 題 の ヒ ン ト を 出 し 、 手 助 け す	①知識 の定 着ま で 再 テ ス ト を す る な ど し て 手 助 け す

《資料1 学習時の生徒への配布プリントの一部》

3年 公民ワークシート 日本国憲法 番外編①

3年 () 組 () 番 氏名 ()

～『STOP 人権侵害』ビデオを作ろう～

憲法学習の締めくくりとして、基本的人権を守るために私たちができることを考えてみました。そこで、人権侵害についてのビデオをグループで作成し、クラス、学校でみんなに見てもらい、一緒に考えるきっかけを作りましょう。

[作成の手順]

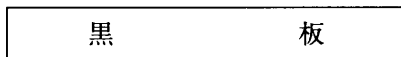
1. 新聞スクラップ№2 テーマ「人権侵害」を各自で書く。
2. 1. をもとに、グループでビデオにするテーマを決める。
3. シナリオ作りや役割分担をする。
4. 撮影
5. 鑑賞

[作成にあたって]

- ・グループのビデオの題名やシナリオは、自分たちが調べてきたスクラップ記事の内容や、感じたこと考えたことを参考にして作ります。多少の脚色はOKです。また、記事を参考にして作ることが難しい場合は自分たちの身近な問題を脚色してもよいです。
- ・ビデオの時間は1分以上3分以内とします。
- ・作成する過程やビデオ自体が、人権を侵害することがないように注意しよう。

[グループについて]

- ・グループは5人または4人とします。座席、グループは図のようです。
- ・グループ内で、リーダー、サブリーダーを1人ずつ決めます。



実名入りの座席表

(省略します)

①～⑧はグループ番号

[授業で取り組んでほしいこと]

- (・人権について現実に起こっていることを新聞から探し、スクラップを作成し、それについて自分の考えを持つ)
- ・グループ内での発表をしっかりと聞き、他人の考えを知り、また、自分の考えを持つ。
- ・自分の伸ばしたいことを意識し、グループの人と協力し、グループでの活動に積極的に参加しよう。
- ・他の人に人権侵害の問題を考えてもらえるよう工夫しよう。

新聞スクラップ

NO. 3

3年()組()番 氏名()

テーマ [人 権]

(7)月(6)日(比國)新聞より

- ①テーマに関連する記事を切り抜く
- ②記事の印象に残った部分に色ペンでチェックを入れる
- ③記事の要約を記入する
- ④記事を読み、考えたこと、わかったことや疑問点を記入する



記事の要約

一九八六年 福井市での中学三年(当時)女子生徒の殺害された事件で逮捕された元受刑者が無実を訴え再審請求を行った。十六点の新証拠を提出した。

考えたこと・疑問・わかったことなど

基本的人権を守るための請求権
もし前川さんが真の殺人者だとして、殺人者だから請求できない
なんてことはない。人権はやはり誰にでもあるんだ。と思った。
もし前川さんが「何の罪もない人だ」としたら、やっぱり「殺人者」
として嫌な事も言わねばならないから、それに「めげずに訴え続け
ける」というのは大変だと思う。

元受刑者が再審請求

福井の中3 女子殺害 新証拠16点を提出

名高裁金沢

一九八六年に福井市で、請求前に金沢市内「十八年間、辛かった」女子生徒が「まだ殺
で開かれた支障を、ともだが、これ前「害された。事件の翌年、
前川さんは「私は無実で」に連れる。無罪を信じ、福井警に殺人容疑で逮捕
時(まだ)が殺害された事、長い戦いになるかも、昨年死去した妻の墓前に
件で、殺人罪に問われ服す。長い戦いになるかも、昨年死去した妻の墓前に
役した空刑者の前川、しれないが、希望を持つ報告したい」と疾ながら
司さん(さ)と市大宮六で前(進んで)行きたい」に語った。
丁目川(の)弁護団は十五と訴えた。事件は八三年三月十九は無罪となったが、九
日、名高裁金沢支部に無実を訴え、前川さんの日、福井市の市営住宅で、五年二月、名高裁金沢
文(種)と(ま)の出席し、実を訴えて再審請求を行

支部は懲役七年の逆転の判決を言い渡した。一級下の突発的な犯行
九七年十一月に最高裁が上告を棄却し有罪が確定した。十六点の新証拠を提出し
弁護団は今後、検察側請求では、殺害後に前川さんを自撃した関係者が未開示している一部
の供述が不自然である関係者の供述調書などに
こと示す法医学鑑定書について証拠開示を請求す
△供述に使用した単に血痕、△迷走に使用した単に血痕、
福井警に殺人容疑で逮捕が見つかっていない。この
察の意見を聞くなどして再審の開始を決定す
た「カー」をかけた刺し犯行で、前川さんの服
に大量の血が付着している。九月の福井地裁判決で
は双方が不服の申し立てを行うことができ
る。

《資料3 各グループで新聞スクラップを読み合わせた記入用紙例》

3年 公民ワークシート 日本国憲法 番外編③

3年()組()番 氏名()

～『STOP 人権侵害』ビデオを作ろう～

① グループの人の新聞スクラップの発表をメモしよう。

質問・疑問があれば発表者に聞こう。

発表を聞き、自分が考えたことをメモしよう。

発表者	記事の要約	発表者が考えたこと・わかったこと	自分が考えたこと
Aさん	ヤフーBBの数百万人の顧客情報が流出。 個人情報を持つ企業の情報管理のおとさんたちが批判をあびる。	ネット内でおこる個人情報の流出は、人権侵害といえる。人権に対する認識の甘さが目出ている。	ハッカーの2人も悪いが、ヤフーBBの人権に対する認識が甘いと思った。
Bさん	フランスの夫婦が、自分の子どもにも、小生の虐待した。しかも自分の罪を軽くするために、 共犯者 あつめた。	日本も虐待は時どきくが、外国でもあり、おどろいた。身体の自由について、世界で考えるべき。	といへず、おどろいた。 日本とまた違った虐待…?
Cさん	経済産業省が、原発の使用済核燃料を地中に埋めて捨てる「直接処分方式」の費用試算を公表していなかった。	こんな重要な費用試算について国民に公表しないのはいけない。知る権利があるのに、知る権利とはいこうものか。	何のために情報公開法をつけたのか。私たちの権利は何なのか? と思う。
Dさん	埼玉県でおきた事件で逮捕された男が、許言公能力があるかどうかを調べる異例の金鑑定が行われる。	おこした人が自分で理解してやった行動かあからないうち→事件をおこしても、精神障害があるかもしれない。	その男の金鑑定で能力がなけれは裁判しないうの?
自分	国土交通省が三菱を---	三菱に対しての人権侵害	×

《資料4 ビデオのシナリオ例》

- ② スクラップを参考にして、グループのビデオの題名を決めよう。

題名 [よくある?! 身体の自由の侵害。]

- ③ スクラップを参考にして、ビデオのシナリオを大まかに考えよう。

(ビデオは、1分間以上～3分間以内です)

キ: こんにちは。ニュースの時間です。〇〇県××市で母子3人が殺傷された事件で、殺人罪などに問われた A 被告に対し、〇〇地裁は求刑通り死刑を言い渡しました。

— カメラが野田山を写して裁判の映像になる。 —

少し喋ってさわさわする。

裁: 静しくに!! それでは B 検事、意見をどうぞ。

検: 被告は兄に他人扱いされた事に腹を立て、無関係の人を殺傷した。この自分の思想の自由を通すために、他人の身体を自由を侵害したとして、死刑を求刑する。

裁: 犯行の悪質さ、残虐さ、動機等にくまばりどころがなく、無差別殺人と同様である。よって求刑通り死刑を言い渡す。

— さわつく... —

キ: 死刑を言い渡された A 被告はうなだれて裁判戸口をあてにしました。最近では殺人までいなくても、身体の自由の侵害が多発起こっています。人をなぐったりするのも身体の自由の侵害となります。一人一人がこれらの事を重く考えていくことが大切でしょう。

また今回の判決の死刑も人権侵害として他の国から非難されています。

- ④ ビデオ作成についての役割

カメラマン (E さん) 役者: C さん B さん A さん D さんキャスター、弁士 (裁判長) (検事) (犯人役)

- ⑤ ビデオ作成に必要な物

ビデオカメラ・テープ (学校で用意) その他は、先生に相談か各自で準備

《資料5 生徒の自己評価例》…資料1 配布時に自己評価票も生徒に渡し説明した。

3年 公民ワークシート 日本国憲法 番外編②

3年()組()番 氏名()

～『STOP 人権侵害』ビデオを作ろう 自己評価～

・自分のことばでよかったこと、反省点などを書こう。

(1) 自分で努力したことは

「班の中で話を進めること、シナリオ作り、意見も言ったし、素晴らしいとは言えなくても発表として形になる様に努力した。他の班に比べて、青争かな班で、ひかえめだったので、なんか大変だった気がした。」

(2) スクラップ NO.2 の作成について

「きっと他の人はこんな選ばないだろうなあ〜と思う自信作だった(笑) 自分が女だから、女だからって職業が制限されるのは嫌だなあと思ったから、スクラップは書きやすかった。」

(3) グループでの各自の記事紹介について

「1人1人発表をして、結構楽しんで取り組めた。」

(4) グループでの題名決めについて

「一番身近にある人権侵害はプライバシーの侵害だと思って、すんなり決めた。でも、かなり範囲が広いテーマで逆に難しかったかな〜と思った。」

(5) シナリオをについては

「もっと工夫して、おもしろい発表にしたかったなあ〜と思った。内容ももっと具体的に分かりやすくできれば良かった。」

(6) 係分担については

「ただシナリオを書いた女子、読む男子と分けただけで、工夫しなかった。」

発表

(7) ~~撮影~~ 影については

「やっぱりもっとおもしろくしたかったです。携帯も見えなかったし、ただそのままでの発表でした。」

(8) 他のグループのを見た感想

「劇をしたり、手を使ったり、画用紙も使ったりしていておもしろくなっていった。劇をしたりすると、やっぱり分かりやすいな〜と思って、感心した。すごく劇だと興味も引けるし、見ていたのしかったです。こんどやるときは劇でたのしくしたいなあ〜と思いました。」

(3) 実践後の感想と考察

一人一人がより多角的、多面的な見方、考え方ができるようにという思いから考えた授業であったが生徒にそのような力が付いたであろうか。3つの点から考えてみた。1つ目は、教科の学習の内容を新聞記事のなかから探す活動から、教科の学習内容が色々な形で私たちの身近なところにあることを実感し、色々な事実から考えてみるができるだろう。2つ目は、自分で教科内容と結びつけた新聞記事を探すことができない生徒がいた場合、グループで色々な記事を互いに示しあうことで、自分の持たなかった見方や考え方に触れることができるだろう。3つ目には、ビデオにするためのシナリオを考えていく中で、色々な立場の人の思いについて考えをめぐらせており、人権について「人間とは何か」という視点からも考えることができるであろう。

しかし、一方で、この授業を行うもととなった、一人一人に力を付けるという視点では課題も多く残った。新聞記事を読めない、他の人の調べたことを聞き取れない、書き取れない、ビデオ（ロールプレイ）で扱うことになった人の気持ちを想像できないなどの基本的な力が身に付いていない生徒は、自己評価も低くなり、授業への関心を高く持たせることが簡単ではなかった。また、授業では、自分の考えたことを伝える力を付けて欲しいと考え、グループ内で新聞記事のスクラップしたものを口頭で発表し、記入用紙に書かせた。しかし、発表内容を簡潔にメモすることが難しそうな生徒も少なくなく、互いのスクラップを回覧し、読んだことを記入用紙に書く方がよいのではないかとの意見を参観の方からいただいた。聞いたことを要約して書く 読んだことを要約して書く この2つの違いをこれまであまり強く意識したことはなかった。しかし、生徒の一人一人の身に付いている力の違いを考えると、この授業では、発表を聞き、それだけでは要約できなかった生徒のために、スクラップを読んで書き写すという、2つの段階を通じて多面的、多角的な見方や考え方に接していくことが必要なのではないかと考えた。

中学校3年生として、こうあって欲しいと願う力がつくよう、一人一人の力を高めてゆきたい。